

### 3月の「街角景気」について(日本)

- ① 現状判断DIは前月比+0.8ポイントと小幅上昇しました。市場の落ち着きが下支えしたと見られます。
- ② 先行き判断DIは同一-1.5ポイントでした。先行き警戒感が強く、家計は総じて消費に慎重です。
- ③ 外部環境が厳しくなる中で政策期待が強まっており、規模や内容次第では景況感が好転しそうです。

#### 先行き警戒感根強く、家計の財布のひもは固い

「街角景気」は正式には景気ウォッチャー調査といい、小売店員、サービス業者、中小企業主など、全国 2,050 名の「景気ウォッチャー」によって、経済の末端の景況感を測ったものです。5段階で景気の状態、先行きを評価し、判断DI\*を集計します。50が景気に対する中立点です。

本日、内閣府が発表した3月調査は、現状判断DIが前月比+0.8ポイントの45.4、先行き判断DIが同一-1.5ポイントの46.7でした。現状は、株価がやや落ち着きを見せたため、小康を得たとも言えそうです。各項目では、小売関連で飲食やサービス分野や住宅関連が堅調でしたが、百貨店、スーパーが不振でした。高額品消費が伸び悩んだと見られます。

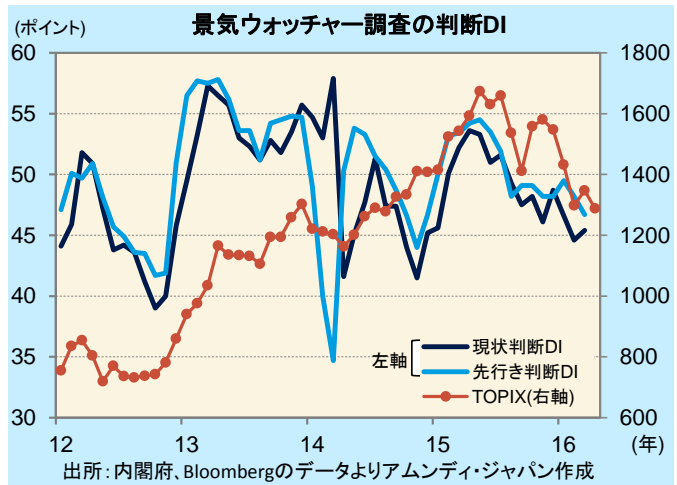
また、先行きでは、携帯電話料金が下がった通信会社や、販売不振が続く衣料品、自動車など、小売関連全般が不調なことが影響しました。景気の先行きに対する警戒感で、財布のひもが締まっている様子がうかがわれます。

#### 今後の景況感は政策対応次第？

米利上げ観測後退などからドル・円相場が110円を割り込む円高局面になっており、企業業績をはじめ、景気に対する先行き懸念が強まっています。追加金融緩和の期待が高まっていますが、市場の動きとの関係から見ると「神通力」が落ちているようにも見えます。

こうした状況に対する突破口として、政府による景気対策が待たれるところです。5月のG7伊勢志摩サミット前後にも打ち出されるのではないかと憶測も出ていますが、時期については依然不透明です。規模や内容次第では、景況感の好転が見込まれます。

\*DI(ディフュージョン・インデックス): 相対する回答の全回答に対する割合の差をとり、多数派意見の「多数の度合い」を見る指標  
◇G7: 先進国首脳会議(日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、カナダ)



◇3月景気ウォッチャー調査の各項目のDI(前月比)

項目	判断DI	
	現状	先行き
合計	0.8	-1.5
家計動向関連	1.1	-2.1
小売関連	-0.4	-2.0
商店街・一般小売店	3.0	-1.8
百貨店	-3.1	-2.2
スーパー	-3.4	-2.7
コンビニエンスストア	-1.5	0.3
衣料品専門店	4.1	-3.8
家電量販店	0.3	-0.7
乗用車・自動車備品販売店	-1.1	-3.2
その他小売店	-0.5	-2.1
飲食関連	1.5	-0.2
サービス関連	3.3	-2.6
旅行・交通関連	5.2	-1.3
通信会社	4.6	-9.0
レジャー施設関連	-0.5	-2.5
その他サービス	1.4	2.4
住宅関連	4.3	-1.9
企業動向関連	0.7	-0.4
製造業	0.8	-0.9
非製造業	0.2	-0.4
雇用関連	-0.8	0.2

出所: 内閣府のデータよりアムンディ・ジャパン作成

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時:購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時:信託財産留保額[最高料率1.0%]

投資信託の保有時:運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第350号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。